

久保田 幸 (KUBOTA Yuki)

研究員

- 1998年 茨城県取手市 生まれ
- 2020年 東京農業大学地域環境科学部
生産環境工学科 卒業
- 2020年 農研機構 農村工学研究部門
農地基盤工学研究領域 畑整備ユニット
- 2021年 同部門 農地基盤情報研究領域
農地整備グループ



筆者。近隣を開拓中。秋は千葉県佐倉市にコスモスを見に行きました。

研究者の横顔

<私が農村工学に至るまで>

生まれは茨城県取手市ですが、父の仕事の都合で何回か転校を経験しました。子供のころは本がとて好きで、小学校の新学期に国語の教科書をもたらしたらその日に読んでしまうような子でした。

小学5年生のころにアメリカのニューヨーク州へ引っ越すことになりました。ニューヨークといってもきらびやかな街ではなく、のんびりした雰囲気のあるサヨセットという町です。ちょうど茨城の阿見町の雰囲気がよく似ていて、横を通りすぎるときは懐かしい気持ちになります。

アメリカは数学の進度が日本よりも遅く、授業は知っていることばかりだったので特進クラスに入ることになりました。当時は暗記も得意だったので生物の成績も良く、基本的な単語も怪しい英語は初級クラスとなり、自然と理系の人間になっていました。数学の先生方はおもしろい人が多く、新学期にギターをもって自作の歌“Math is easy”を歌う先生や、テーブルに飛び乗って“1 is not a prime number!”と叫ぶ先生もいました。おかげで1が素数でないことは忘れません。

高校生の時に帰国しそれからの進路を考えたとき、食い扶持に困らない職業に就こう、食は絶対に人に必要だ、と思い農業関連の分野に行くことに決めました。環境に興味があり高校物理も好きだったので、「環境工学」の名前に惹かれて東京農業大学に入学しました。

<気候変動と私たちの生活>

大学3年生の時に先生が「これからは気候変動に対応した農地をつくらなければならない」と仰っていて、これが常に自分の底にあるテーマになったような気がします。

ここ最近は大雨被害を聞かない年はなく、激甚化する自然災害を私たちは肌で感じています。実際に私も数年前の台風では実家横の河川が氾濫危険水位を超過し堤防のすれすれまで水があがってくるなど怖い思いをしました。

自分の手元にある課題とそれがつながる先を意識しながら気候変動と私たちの生活について向き合っていくと思っています。まずは今やっているバイオ炭の分析をコツコツ丁寧に行っていくところから始めようと思います。



↑実家近くの多摩川の河川敷にある木。台風のとときに流された植物が絡みついて残っている。